2024年度「市大生チャレンジ事業」一覧

採択件数　8件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学研究科 博士前期2年 山﨑　陽介	8名 ・情報科学研究科 博士前期2年　山﨑 陽介（代表者） ・情報科学研究科 博士前期2年　梅田 創 ・情報科学研究科 博士前期2年　山根 愛実	【継続2年目】 地域活性化のための掲示板アプリCocBanの普及および課題解決能力の検証	【目的】 広島市が掲げている「地域コミュニティ活性化ビジョン」の推進を図ることを目的として2023年度に掲示板アプリ”CocBan”（コクバン）を開発した。 2024年度は実地での運用を展開し、CocBanの有用性の確認し、更なる改良を行う。さらに、広島市内の多くの地域コミュニティにCocBanを導入し、その普及を図ることに加えて、持続可能なアプリの実現のために事業化を推し進めることを目標とする。 【概要】 ・アプリの特徴として、非匿名性（名前のみ公開）のため、住民同士のオフラインの交流を活性化させることができる ・他のアプリと異なり、ユーザー登録も簡単でデジタル機器に不慣れな人でも使いやすい仕様とする ・セキュリティについては、コミュニティ外の方が誤って参加できないような仕組みづくりを行う ・Twitterなどとは異なり実名で登録するため、詐欺などの犯罪が起こりにくい ・各地域の自治会・町内会等への普及を目指す	情報科学研科 教授 弘中 哲夫
2	情報科学部4年 田中　瞬	6名 ・情報科学研究科 博士前期1年　對馬 理向 ・情報科学研究科 博士前期1年　大村 美鶴穂 ・情報科学部4年　田中　瞬（代表者） ・情報科学部4年　梶　友理香 ・情報科学部4年　上田　徳彦 ・情報科学部4年　田中　伶	【継続2年目】 耳の不自由な人や外国人向けの字幕表示システム	【目的】 紙芝居は、日本特有の文化であり、身近で気軽なパフォーマンスである。これまで耳の不自由な人や外国の人への対応はあまり行われておらず、アドリブ等の字幕表示は難しいという課題がある。 人工知能の技術を使って、日本語や外国語で字幕表示し、ユニバーサルデザインの紙芝居の実現に貢献する。 【概要】 ・ひろしま紙芝居村のメンバーにセリフを読んでもらい、サンプルとして、音声データと文字データを関連づけを行う ・ライブで演者が発する言葉を人工知能に認識させ、文字に変換して表示するシステムを作成 ・声の大きさや感情、話者の表現の違いによって、字の大きさ、字体、字色を変えるなどにも挑戦する ・多言語に翻訳により、外国の方にも紙芝居が分かるようにすることを目指す	情報科学研究科 助教 森　康真
3	情報科学部3年 大倉　秀斗	3名 ・情報科学部3年　大倉　秀斗（代表者） ・情報科学部3年　マニンガス ファン ミゲル ・芸術学部1年　渡邊　弘平	技術と創造の探求！プログラミングと芸術の体験教室	【目的】 現代の中高生にプログラミングを通じたロボットの実装、写真撮影、粘土工作を体験できる機会を提供する。情報技術と芸術のプログラムを通して、問題解決能力と自己表現を身につけることができる。また、プレゼンテーションを通して、参加者にパワーポイント技術やコミュニケーション能力など、将来の自分を考える機会と実践的な学びを得られるイベントを開催する。 【概要】 ・自律制御で未知の迷路を走破するロボットを制御するプログラムを作成し、スクラッチプログラムで論理思考を養う ・カメラの基本操作と写真の構図を学び、実体験をする。物事を違う角度で見ることで、多面的な思考に繋がることが期待できる ・粘土で制作した作品の写真をとり、プレゼンテーションをする。パワーポイントなど、今後使用されるソフトの基本操作が学べる実践的な体験を作る ・呉市の伝統料理である「肉じゃが」を一緒に料理し、地域に対する想いを構築する	情報科学研究科 准教授 目良　和也
4	国際学部3年 田儀　千尋	4名 ・国際学部3年　田儀　千尋（代表者） ・国際学部3年　桑田　朋香 ・国際学部3年　内藤　野々香 ・国際学部3年　中岡　知優	パラスポーツで人生を豊かにする	【目的】 障がい者(チャレンジド)とともに、パラスポーツを通じて交流を行うことで、チャレンジドの方々やパラスポーツへの理解を深め、チャレンジドの方々が知ってもらいたいこと、広めていきたい情報を伝えることができる場を作る。チャレンジドの方々とのつながりを増やし、みんなで課題を解決していくコミュニティをつくり、パラスポーツで「豊かな人生」を実現することを目標とする。 【概要】 ・「チャレンジド」とは障がいを持つ人を表す新しい米語を語源であり、この活動を通してチャレンジドという言葉を広めていく ・白い杖SOSシグナルをひろめる会広島の森井さんと企画の会議や準備を行い、イベントを開催する ・ボッチャ、キンボール、シッティングバレー、ゴールボールなどのパラスポーツを行い、パラスポーツの認知度向上と「チャレンジド」への理解を深める（大学祭での出店） ・実際にパラスポーツを体験することで、観るきっかけや、チャレンジドへの関心を高める ※チーム名の由来は、パラスポーツをenjoyしよう！と、パーリーピーポー（パリピポ）をかけて、パラパリ	国際学部 教授 山根　史博

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
5	情報科学部3年 岩室　怜弥	5名 ・情報科学研究科 博士前期2年　野田 楓稀 ・情報科学部3年　岩室　怜弥（代表者） ・情報科学部2年　藤田　太陽 ・情報科学部4年　1名	情報技術を用いて農業の担い手不足を支援	【目的】 農作業の継承について、農作業のノウハウをまとめた電子マニュアルとしてプラットフォームを開発し、だれでも正しく農作業を学べ、好きなときに作業を振り返り確認できるようする。これを通して農家の担い手育成を支援し、従業員雇用時に発生する農作業の質に関する問題、農作業の継承問題を解決することを目的とする。また、この活動を外部に発信していくことで広島菜の PR にもつなげる。 【概要】 ・公民館や子ども食堂などで子どもたちと一緒に国際料理を調理する ・さくら寮に住む留学生との交流や食を通じてネイティブの言語や文化に触れながら国際交流を経験してもらい、グローバルな視野を持つための教育活動の一環とする ・留学生に、日本の地域コミュニティの場で日本の文化を理解してもらう ・プロジェクト期間終了後も活動が継続できるようにするため、グローバル食育というシステムを地域に残す ※チーム名の由来は、まるで食卓ごと世界各国を旅するかのように、子どもたちとテーブルを囲みながら、世界の料理やそこから見える文化に親しみたいという思いを込めました。	情報科学研究科 教授 西　正博
6	国際学部2年 伊藤　綾乃	3名 ・国際学部2年　伊藤　綾乃（代表者） ・国際学部2年　砂田　優衣 ・国際学部2年　西村　唯花	食を通じた国際理解	【目的】 子ども達と一緒に世界各国の料理を食べながら、その国独自の文化や価値観などを学び、食を通じて国際理解を深めてもらう。 公民館などの地域の団体と連携を取りながら活動を計画、運営することで、より地域に根差した、持続的な場を提供としていく。 【概要】□ ・公民館や子ども食堂などで子どもたちと一緒に国際料理を調理する ・さくら寮に住む留学生との交流や食を通じてネイティブの言語や文化に触れながら国際交流を経験してもらい、グローバルな視野を持つための教育活動の一環とする ・留学生に、日本の地域コミュニティの場で日本の文化を理解してもらう ・プロジェクト期間終了後も活動が継続できるようにするため、グローバル食育というシステムを地域に残す ※チーム名の由来は、まるで食卓ごと世界各国を旅するかのように、子どもたちとテーブルを囲みながら、世界の料理やそこから見える文化に親しみたいという思いを込めました。	芸術学部 准教授 岩崎　貴宏
7	芸術学部4年 若林　出海	5名 ・芸術学部4年　若林　出海（代表者） ・芸術学部4年　渡邊　亜美 ・情報科学部4年　板倉　向志 ・芸術学部　作家数名	若者の強く生きていける社会を目指す展覧会	【目的】 コロナの期間を経てから、小学生の不登校率が明確に増えてきている。その原因の一つとして生きづらさの低年齢化という要素、昨今では小学生でも教師や友人間での人間関係や学校生活のなかで生きづらさを感じていると言われている。その反動で子どもたちは直感的に不登校の選択を余儀なくされている。私たちが対処すべき問題は不登校などの直接的な問題ではなく子どもたちへの理解を高めることが重要であり、子どもたちへの関心を高め理解を促し、大人と子どもの信頼関係を築く。 そこで、若者たちが強く生きていけるように必要以上に責任を負わず、大人たちと相互に理解して生きていけるよう、このプロジェクトでは美術を通して若者が強く生きていける社会、現代社会における美術の存在意義の向上を目指す。 【概要】□ ・思春期の青少年たちが持つ言語化できない主張や思考や、彼らに強く存在する本質的な思い出などを、学生作家が青少年たちに一対一で取材する。 ・取材から得たものから芸術作品を作ることで青少年たちの自己理解を促し、より良い成長の場を提供する（10-20作品を想定） ・制作した作品を展覧会として発表する。主な集客層を30代から40代の生産年齢の方々を設定し宣伝広報活動を行う	芸術学部 准教授 岩崎　貴宏
8	情報科学部3年 マニンガス ファン ミゲル	4名 ・情報科学部3年　マニンガス ファン ミゲル（代表者） ・情報科学部3年　大倉　秀斗 ・情報科学部3年　山田　会一期 ・芸術学部1年　渡邊　弘平	【30周年記念事業】 企業の廃材を活用した製品化提案	【目的】 企業が処理している廃棄物を再利用して、地域復興に繋がるSDGs配慮の商品の提案をする。 最終目標は企業の廃棄物を再利用した大量生産可能で地域の活性化につながる商品のアイデアの提案ができること。そのためには、中間目標として廃材の特性を最大限に活用できるように研究し、特性にあった商品のモデルを試作する。また、作製したモデルを企業に評価してもらう。 【概要】 ・地元企業からの廃棄物を再利用し、環境にやさしい商品を製作する ・SDGsに基づいた取り組みを行い、持続可能な商品の開発を進める ・最終的な製品を企業が評価する ・地域社会へのポジティブな影響と開発過程や評価結果を広報する ※チーム名の由来は、海外留学生との挨拶からきています。日本社会の基盤や文化を尊重する意味で「自分が日本になる」ことと自分の行動で日本を変える「日本の未来に貢献する」という二つの意味を込めている。	情報科学研究科 教授 李　仕剛

2023年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　5件

採択件数　4件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	芸術学研究科 博士前期1年 ジョン・テヨン	7名 （芸術学研究科4名） （情報科学研究科1名） （平和学研究科1名） （国際学部1名） （芸術学部1名）	みんなのバス	【目的】 バス停の位置および路線図を利用者の立場から考察し、調査・改善を通じてバスの利便性を向上させ、より豊かな生活環境に貢献する。 【概要】 ・現在の広島バス利用に困難な点を、バス利用者や広電バス担当者へインタビューを行い、現状の課題を把握する ・分析結果をもとに改善場所を選定し、現場を調査・分析し、デザイン制作（案内表示など）を行う ・デザイン案を広電バスの担当者にプレゼンテーションし、フィードバックをもとにブラッシュアップする ・選定したバス停で一ヶ月間社会実験を行う ・実証実験の結果報告としてgallery Gで展覧会を開く	芸術学部 教授 吉田　幸弘 芸術学部 准教授 中村　圭
2	芸術学部 2年 川口　春	4名 （芸術学部4名）	大崎上島・豊島の方々と 地元の素材で草木染め体験	【目的】 救世軍豊浜学寮（児童養護施設）で生活する子ども達に、普段経験することが難しい草木染体験を一緒に行い、「美術」を通じた交流を図り子ども達の思い出作りに貢献する。また、昨年度からの繋がりである大崎上島地区の方々と継続的な活動を行うことで新たな地域課題を探る。 【概要】 ・染物イベント前に、現地での交流会を実施 ・地元ならではの染料素材を子ども達と一緒に探し、地元の自然について知る機会を設ける ・イベントを通じて「美術」の楽しさを伝え、子ども達にとって「美術」が新たな選択肢となるよう興味関心を広げる ・昨年度活動した大崎上島地区の方々との交流を大切にし、継続的な活動を行うことで新たな地域課題を探る機会をつくる ・教師を目指すメンバーもおり、子ども達との触れ合いを通じて美術講師としての指導経験を積む	芸術学部 講師 今野　健太
3	情報科学研究科 博士前期1年 山﨑　陽介	3名 （情報科学研究科3名）	地域活性化のための情報格差をなくす掲示板アプリケーションの開発	【目的】 回覧板+αの機能をもち、「簡単」に操作が可能な掲示板アプリ″CocBan″（コクバン）を開発することで、広島市が掲げている「地域コミュニティ活性化ビジョン」の推進を図る。 【概要】 ・アプリの特徴として、非匿名性（名前のみ公開）のため、住民同士のオフラインの交流を活性化させることができる ・他のアプリと異なり、ユーザー登録も簡単でデジタル機器に不慣れな人でも使いやすい仕様とする ・セキュリティについては、コミュニティ外の方が誤って参加できないような仕組みづくりを行う ・Twitterなどとは異なり実名で登録するため、詐欺などの犯罪が起こりにくい ・各地域の自治会・町内会等への普及を目指す	情報科学研究科 教授 弘中　哲夫
4	情報科学部 4年 リュウ・シャン	3名 （情報科学部3名）	耳の不自由な人や外国の人向けの 紙芝居字幕システム	【目的】 紙芝居は、日本特有の文化であり、身近で気軽なパフォーマンスである。これまで耳の不自由な人や外国の人への対応はあまり行われておらず、アドリブ等の字幕表示は難しいという課題がある。人工知能の技術を使って、日本語や外国語で字幕表示し、ユニバーサルデザインの紙芝居の実現に貢献する。 【概要】 ・ひろしま紙芝居村のメンバーにセリフを読んでもらい、サンプルとして、音声データと文字データを関連づけを行う ・ライブで演者が発する言葉を人工知能に認識させ、文字に変換して表示するシステムを作成 ・声の大きさや感情、話者の表現の違いによって、字の大きさ、字体、字色を変えるなどのことにも挑戦する ・多言語に翻訳により、外国の人にも紙芝居が分かるようにすることを目指す	情報科学研究科 助教 森　康真

2022年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　3件

採択件数　3件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	国際学部 佐藤　優	5名 （国際学部4名）	小学生とつくりだす絵おと芝居	①小学生に平和の尊さを学ぶ機会を提供する。 ②物語として広島の歴史を広く発信するとともに、地域で活用してもらいながら後世に残す。	芸術学部 吉田　幸弘 教授
2	芸術学研究科 博士後期課程 トウシキ	9名 （芸術学研究科5名） （芸術学部3名） （芸術学部助教1名）	自然派展-芽出(めで)-	①中山間地域の活性化（廿日市市佐伯地区） ②国際理解の促進 ③スポーツとアートの融合	芸術学部 伊東　敏光 教授 芸術学部 チャールズ・ウォーゼン 教授
3	芸術学部 川口　春	4名 （芸術学部4名）	大崎上島「空き地再生プロジェクト」 ～大串の方々との共同制作を通した 空き地と竹の活用方法の提案～	①島しょ部の地域活性化（大崎上島町大串地域） ②空地を活用した、子ども・大人の憩いの場の整備 ③竹害対策と竹の活用方法の提案	芸術学部 吉田　幸弘 教授

2021年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　4件

採択件数　3件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	芸術学研究科 土井　紀子	5名 （芸術学研究科1名） （芸術学部4名）	小さな祈りの影絵展2021	広島市内の幼稚園・中学校・高等学校などと連携を図り影絵を制作し、「小さな祈りの影絵展」を開催する。また、協力団体等において巡回展示を行う。	芸術学部 田中智美　助教
2	国際学部 河本　涼音	5名 （国際学部3名） （芸術学部2名）	ONE DREAM 2021 学生プロジェクト	「世界が良くなるために行う、あなたの2021年のアクション」をテーマに世界各地の人々から2021枚のメッセージカードを募集して制作する作品等を8月5日に展示する。	国際学部 金谷信子　教授
3	芸術学研究科 上本 佳奈	16名 （芸術学研究科5名） （芸術学部11名）	「リノベーション＋芸術航路―広島市立大学芸術学部有志展―」プロジェクト	呉市大崎下島の御手洗にある古民家の空きスペースを使い、アート作品を展示する。また、使われていない古い納屋の中をリノベーションし、今後イベントスペースとして誰でも有効活用することができるように整備する。	社会連携センター 三上賢治　特任講師

2020年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　４件

採択件数　４件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学部 澤村　駿介	３名 （情報科学研究科１名） （情報科学部2名）	地域特化型『テイクアウト情報共有サイト』プロジェクト	コロナ禍の中、「テイクアウト」という分野において、飲食業界を救えるような地域貢献を目指し、一人暮らしの学生が多く住む横川や安佐南区などの飲食店と学生（客）をつなぐテイクアウト情報共有サイトを制作する。	情報科学研究科 高野知佐教授 小畑博靖准教授
2	芸術学研究科 板井　三那子	2名 （芸術学研究科2名）	三原市の地域再生と継続のための写真展と地域文化史制作	三原市本郷町の風景、生活文化を記録・伝えていくことを目指し、地域住民が生活の様子を写した写真をもとにインタビューやフィールドワークを行い、住民たちの生活の記録を作成し、写真展で住民と一緒に発表する。	芸術学部 チャールズ・ウォーゼン教授
3	芸術学研究科 大上　ひとみ	3名 （芸術学研究科2名） （芸術学部1名）	訪日外国人と日本人とのコミュニケーションを生み出す風呂敷作り	言葉が通じなくても気軽に外国人と日本人がコミュニケーションをとれるツールとして風呂敷を作成し、国際交流の楽しさや重要性を感じる手助けとなることを目指す。	芸術学部 納島正弘教授
4	国際学部 平田　真己	2名 （国際学部2名）	生きづらさを可視化する－ジェンダー・セクシュアリティの視点から－	大学での学びの地域への還元と共通のテーマを学ぶ広島市内の大学生同士の交流の場を作り、ジェンダー・セクシュアリティにまつわる疑問、生きづらさ、違和感を生み出す社会構造に目を向け、言語化・可視化することを目標とし、学生と一般市民が一緒になって考えるワークショップを開催する。	国際学部 ヴェール，ウルリケ教授

2019年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　8件

採択件数　6件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学部 近藤　匠	7名 （情報科学部　6名） （芸術学部　1名）	いちだいプログラミング教室	プログラミング言語を使って絵を描いてもらうなど、コンピュータの仕組みやプログラミングについて小中高生に知ってもらうことを目指す。	情報科学研究科 弘中教授 井上准教授
2	芸術学部 松本　拓也	2名 （芸術学部）	宮島ろくろ発信プロジェクト	パッケージデザインの提案や、写真集などの制作を通して、宮島伝統産業「宮島ろくろ」の魅力を伝えるとともに、伝統継承のきっかけづくりを目指す。	芸術学部 大塚教授 及川教授
3	情報科学研究科 小野　美宙	4名 （情報科学研究科）	RFIDのタグを用いたタイム計測の自動化	地域の体育協会からの依頼を受け、新春ロードレース大会でのタイム計測の自動化を目指す。	情報科学研究科 馬場講師
4	芸術学研究科 細萱　航平	2名 （芸術学研究科）	「災禍とモノと物語り」展における市民向けシンポジウムと震災遺構のVR体験の同時開催事業	シンポジウムと東日本大震災の遺構の3Dデータアーカイブ VR体験会を通して、災害の記憶の継承に関わる市民活動に貢献することを目標とする。	芸術学部 伊東教授
5	芸術学部 浅井　優人	15名 （芸術学部）	芸術、文化の更なる普及と、地域の魅力の再発見	制作した作品を八丁堀や横川地区等へ持ち出して写真撮影し、その写真集を配布することで、芸術に触れる機会を提供し、地域の魅力を伝えることを目指す。	芸術学部 丸橋助教
6	国際学部 森脇　美鈴	3名 （国際学部　2名） （情報科学研究科　1名）	とびしま海道のグルメ旅の情報発信	少子高齢化の進む島しょ部のグルメ情報をまとめたアクセスマップを作成するとともに、観光案内所等に設置し、観光振興に貢献することを目標とする。	社会連携センター 三上特任助教

2018年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　10件

採択件数　6件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学部 林　侑香里	7名 （情報科学部　7名）	広島の中学・高校生を対象としたプログラミング教室	広島の中学・高校生にコンピュータの仕組みやプログラミングについて知ってもらい、日本の将来を担う立派なIT技術者を教育することを目的とする。 こどもパソコンIchigoJamという自分で組み立てのできる小型パソコンの自作の体験とIchigoJamを用いたBasic言語によるプログラミングの体験講座に加え、LinuxボードRaspberryPiを用いてチャットアプリの作成やWebカメラと連携させて画像処理や電子工作を行う。	情報科学研究科 弘中教授 井上准教授
2	芸術学部 川口　綾乃	25名 （芸術学部　22名） （情報科学部　2名） （写真映像教務員　1名）	横川プロジェクト	横川を題材にそこに住む人々やその土地の活気ある風景、建造物など横川独自の背景を生かし、学生の視点から横川の魅力を再発見し、発信する。横川という町は機能的でシンプルな近年の新しいデザインとは異なり、横川に息づく人やモノ、それぞれの時間が積み重なって構成されている町である。特に横川の建造物やそこに住んでいる人々にはそれらが顕著に表れており場所によっては隣り合う建物同士を比較して互いに時代錯誤な感覚を得ることも少なくない。そういった横川にしかない感覚を作品として昇華させることでその作品を目にした人々に新たな視点を発信し、横川を知らない人もすでに知っている人も含め、横川という魅力ある町に興味を持ってもらう機会を提示する。横川をテーマに作品を制作しそれらを発信する手段として作品をまとめた雑誌を制作。作品制作のの為の取材や撮影などを地域と協力していくことで新しい環境での多面的な問題解決力を身につける。同時に学生のコミュニケーション能力、技術向上を目指す。成果物は大学祭で販売。横川では雑誌の委託販売、展示を行う。	芸術学部 吉田教授
3	情報科学研究科 藤井　信吾	21名 （情報科学研究科9名） （情報科学部12名）	市大生によるパソコンなんでも相談室2018	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。 今年度からは、この取り組みについてよりたくさんの人に知ってもらうため、学内の学生に周知し、興味を持ってもらうことも目標としている。	情報科学研究科 小林教授 齊藤助教 脇田助教
4	情報科学部 武内　亮	2名 （情報科学部2名）	ヒロシマピースキャンプ2018	平和記念日における国内外からの来訪者に、広島市市民局市民活動推進課と協働で簡易な宿泊場所を広島市立大学の運動場に設置し、「ヒロシマピースキャンプ実行委員会」として利用者や市民による核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた新たな意見交換・交流の場を提供することを目的とする。 本事業に参加する学生ボランティアスタッフ(広島県内の大学生等)を募集し、利用者、市民及びボランティアスタッフの交流を図るため、イベントの企画運営及び環境の整備を行う。	国際学部 井上教授
5	情報科学科 山﨑　樹生	5名 （情報科学科　5名）	情報化社会に対する興味を深めよう	今後の未来を担う（になう）高校生にIT分野にも興味を深めてもらうことを目的とする。まず、高校生の情報化社会に対する考えを調査するために8月５日のオープンキャンパスでアンケートを実施する。次に企業へ訪問し、アンケート結果と自分たちの考えを伝えて情報化社会について話し合う。最後にアンケート実施と企業との話し合いで学んだことをまとめ、１０月８日のライブキャンパスで発表する。ライブキャンパスでの発表が厳しい場合、近隣の高校で発表する。以上の事を実施することで広島の高校生を対象に情報化社会に対する興味を深めてもらう。	情報科学研究科 河野准教授
6	芸術学部 塚本　結	10名 （芸術学部　10名）	写真作品とカメラのワークショップを通した基町アパートの地域活性化	現在広島市中区にある基町住宅地では少子高齢化に伴う地域コミュニティーの活力の低下の問題に直面している。本プロジェクトは基町住宅地区の方々にに今の基町を写真作品というフィルターを通して観覧してもらうと共に外部の人に基町の魅力を知ってもらうことによって、コミュニティーの活性化を目的としている。そのためには基町アパートとは大高正人が設計した広島のシンボルの一つとされる貴重で美しい建造物であることを再認識してもらうことが重要であり、高度なカメラ技術、表現方法を研究し写真活動を勢力的に行っている広島市立大学の学生や交換留学生、また広島で活動している作家の方に展示してもらう。そして、事前に地域に住む子供たちと基町の写真を撮るワークショップを行い、一緒に展示することでよりリアルでディープな作品を集めた展示をしたいと考える。一方で子供達に写真を撮る楽しさを知ってもらいカメラを通じて学生と地域の人とのコミュニケーションをとるキッカケを作る。	芸術学部 ウォーゼンチャールズ教授 南教授

2017年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　8件

採択件数　4件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学研究科 新井　敦士	19名 （情報科学研究科10名） （情報科学部9名）	市大生によるパソコンなんでも相談室2017	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。 今年度からは、この取り組みについてよりたくさんの人に知ってもらうため、学内の学生に周知し、興味を持ってもらうことも目標としている。	情報科学研究科 小林教授 齊藤助教 脇田助教
2	情報科学部 家平　和輝	7名 （情報科学研究科1名） （情報科学部6名）	広島の中学・高校生を対象としたプログラミング教室	広島の中学・高校生にコンピュータの仕組みやプログラミングについて知ってもらい、日本の将来を担う立派なIT技術者を教育することを目的とする。 こどもパソコンIchigoJamという自分で組み立てのできる小型パソコンの自作の体験とIchigoJamを用いたBasic言語によるプログラミングの体験講座に加え、LinuxボードRaspberryPiを用いてチャットアプリの作成やWebカメラと連携させて画像処理や電子工作を行う。	情報科学研究科 弘中教授 井上准教授
3	国際学部 角田　大河	4名 （国際学部4名）	広島県の学生を対象としたビジネスコンテストの開催	広島県の学生を対象に、ビジネスコンテストの開催を行い広島県のイノベーションにおけるレベルを向上させ、地域創生に貢献することを目的とする。 企業や地元の金融機関にも協力していただき、投資手続き等の環境の構築にも努め、実際に優秀な事業を始めるための運用資金等の獲得も考えている。	国際学部 李教授
4	情報科学部 武内　亮	3名 （情報科学部2名） （芸術学部1名）	ヒロシマピースキャンプ2017	平和記念日における国内外からの来訪者に、広島市市民局市民活動推進課と協働で簡易な宿泊場所を広島市立大学の運動場に設置し、「ヒロシマピースキャンプ実行委員会」として利用者や市民による核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた新たな意見交換・交流の場を提供することを目的とする。 本事業に参加する学生ボランティアスタッフ(広島県内の大学生等)を募集し、利用者、市民及びボランティアスタッフの交流を図るため、イベントの企画運営及び環境の整備を行う。	国際学部 井上教授

2016年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　８件

採択件数　６件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	芸術学部 室星　理歩	5名 （芸術5名）	伝統的板目木版画技法による宮島観光マップ製作のための調査研究	COC+プロジェクトの一環として、来年度予定している板目木版画技法による「宮島すごろく観光マップ」の製作のため、板目木版画および双六の調査、研究を行う。 またこれらにおいて得られた知識や経験を観光マップ作りに生かすと同時に、宮島の地域活性化つなげることとする。	芸術学部 釣谷講師
2	情報科学研究科 綱本　勇樹	17名 （情研究科8名） （情9名）	市大生によるパソコンなんでも相談室2016	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。 今回は、以下の点にチャレンジする。 ・ニーズに応じた内容のお役立ち講座を開設し、講座内容のさらなる充実を目指す。 ・相談室の雰囲気などが分かるように動画配信など広報のさらなる充実を図る。	情報科学研究科 小林教授 齊藤助教 脇田助教
3	芸術学部 板井　三那子	33名 （芸術31名） （情報2名）	地域交流と社会貢献を兼ねたランドアートプロジェクト	地域交流と社会貢献を兼ねたランドアートプロジェクトを計画している。本学の近隣にある竹林（大塚上町）の整備をおこないながら、伐採された竹を使って作品の制作をおこなう。協力してくれるスタッフ（学部生）に竹林の整備や制作に参加してもらい、より多くの学生が地域の方と交流を深めていってもうらう内容とする。留学生には日本の工芸として昔から使われてきた竹林に触れてもらいたく、外国人も参加しやすい環境をつくることに努める。より多くの人たちに実際に竹林に入ってもらい、アートを通して地域との関わりを深め、社会問題である竹害について考えていきたい。	芸術学部 前川教授 土井非常勤教員
4	芸術学部 中谷　悠久	11名 （芸術11名）	地域商店街活性化への貢献	地域の文化発信拠点としての横川シネマに地域で生活する学生がコンテンツを提供することによって地域文化の発展に貢献したいと思う。	芸術学部 笠原教授
5	情報科学部 家平　和輝	4名 （情報4名）	広島の中学・高校生を対象としたプログラミング教室	広島の中学・高校生にコンピュータの仕組みやプログラミングについて知ってもらう。また、日本の将来を担う立派なIT技術者を教育することを目的とする。こどもパソコンIchigoJamという自分で組み立てのできる小型パソコンの自作の体験とIchigoJamを用いたBasic言語によるプログラミングの体験講座を行う。	情報科学部 弘中教授
6	情報科学部 武内　亮	6名 （情報4名） （芸術2名）	ヒロシマピースキャンプ2016	広島市市民局市民活動推進課と協働で、８月６日の平和記念日に来広する国内外からの来訪者に対して、無料の簡易キャンプサイトを提供するとともに安全で快適な運営を行う。（１）キャンプサイトの整備、貸出用テントの準備（２）当日の受付及び見回り等	国際学部 井上教授

2015年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　7件

採択件数　4件（以下のとおり）

	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学研究科 岡田　淳司	21名 （情研究科11名） （情10名）	市大生によるパソコンなんでも相談室2015	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。	情報科学研究科 小林教授 齊藤充行助教
2	芸術学部 渡邉　藍子	3名 （芸3名）	ひろしま発人材集積促進プロジェクト(デザイン分野) -Happyシマす。OK Islandプロジェクト-	瀬戸内の離島である"大崎上島"を舞台とした20ケ月のデザインプロジェクト。 様々な分野のデザイナーやクリエイター島で活動されている方々と交流しながら、地域に根差したデザインの提案、実現に取り込んでいる。地方で顕在している人口減少、コミュニティの衰退、地域産業の衰退といった様々な課題を解決する事を目的に、イベントのデザイン、暮らしのデザイン、産品のデザインにより、地域の人々との交流を図る。	芸術学部 藤江講師
3	情報科学部 武内　亮	8名 （情4名） （国1名） （芸3名）	ヒロシマピースキャンプ2015	広島市市民局市民活動推進課と協働で、8月6日の平和記念日に来広する国内外からの来訪者に対して、無料の簡易キャンプサイトを提供する。 キャンプサイト利用者や市民による核兵器廃絶や世界恒久平和の実現に向けた交流の場を創出する。	国際学部 井上泰浩教授
4	国際学部 中田　千夏	23名 （国14名） （情7名） （芸2名）	３学部生コラボレーションによる禁煙パフォーマンス ー未成年の未喫煙者のためにー	喫煙習慣をもつに至らない未成年者(高校生～未成年大学生)を対象に、同世代の大学生自身がたばこの有害性を学び、それを同世代にアピールする手法でプレゼンテーションをする。 それを通じて、本学を拠点とした禁煙化促進へ社会貢献を行う。 ･8/2　オープンキャンパス、10/12 ライブキャンパス、11月大学祭など、来学する高校生など未成年者と保護者に向けてアカペラコーラス、ダンス、フラッシュモブなどのパフォーマンスを行う。	国際学部 太田教授 山口教授 三村保健師

2014年度「市大生チャレンジ事業」一覧

申請件数　6件

採択件数　6件（以下のとおり）

区分	代表者	構成員	実施テーマ	実施計画	アドバイザー
1	情報科学研究科 菊池　光太朗	18名 （情研究科9名） （情9名）	市大生によるパソコンなんでも相談室2014秋	パソコンやその関連機器に関する初歩的な悩みや疑問点の解決を行いながら、大学で学んでいる情報科学に関する知識を市民や社会に還元するとともに、自身のコミュニケーション能力を向上させる。	情報科学研究科 小林教授 齊藤助教
2	情報科学研究科 北山　翔馬	15名 （情研究科8名） （情7名）	地域における情報リテラシーの向上および情報jモラルの育成	・小・中・高等学校での情報リテラシー向上及び情報モラル育成のための講演活動を行う。 ・サイバー犯罪についての注意喚起のため、ポスター、チラシやWebでの広報活動を行う。 ・企業等に向けて、ウィルス感染についてのデモンスとレーションプログラムを作成する。 ・小学校におけるICT活用支援を行う（昨年度からの継続）。	情報科学研究科 中田教授 島准教授 双紙准教授
3	情報科学部 武内　亮	6名 （情3名） （国3名）	ヒロシマピースキャンプ2014	広島市市民局市民活動推進課と協働で、8月6日の平和記念日に来広する国内外からの来訪者に対して、無料の簡易キャンプサイトを提供する。キャンプサイト利用者や市民による核兵器廃絶や世界恒久平和の実現に向けた交流の場を創出する。	国際学部 井上教授
4	芸術学部 増田　幸美	8名 （芸8名）	広島平和ポスター展	芸術学部デザイン工芸学科視覚造形で課題として制作する平和ポスターを8月6日頃に一般公開する。広島で学ぶ学生が独自の視点や切り口で考える「平和」を多くの人々に伝え、またポスターを目にした人々にも「平和」について考えていただく。	芸術学部 中村講師
5	パイオニアプロジェクト	31名 （芸27名） （国3名） （情1名）	芸術学部 板井　三那子	本学近隣の竹林の拡大問題を解消するために竹を伐採し、また伐採した竹を用いて創作活動を行い、作品を一般に公開する。	芸術学部 前川教授
6	広島市域でのプログラミング技術の普及活動	4名 （情4名）	情報科学部 岩崎　圭太	広島市及びその周辺地域において、プログラミング技術者を講師に迎え、最新技術を利用したプログラミング等の勉強会を、情報系企業の社会人や学生を対象に行う。	情報科学研究科 井上博之准教授